

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	宇城市松橋小川地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 吉田 次義

再生委員会の構成員	松橋小川漁業協同組合、宇城市経済部農林水産課、熊本県南広域本部農林水産部水産課
オブザーバー	

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	松橋小川漁協の定款で定める地区内（対象漁業者 111 名） 採貝漁業（111 名）
-------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地区周辺海域は、不知火海の最湾奥部に位置し、宇土半島と竜北干拓に囲まれた非常に閉鎖性の高い海域に、砂川、大野川などの多くの二級河川が流れ込んでいる。主たる漁業は河口域、干潟域を利用した採貝漁業で、シジミ類やハマグリが主たる対象魚種となっている。</p> <p>近年、陸域から流入した泥分の堆積などで徐々に水域環境が悪化してきており、シジミ類やハマグリ等の資源の減少が懸念され、資源量の維持・回復が課題となっている。</p>
---

## (2) その他の関連する現状等

<p>農業との兼業漁家が多いほか、漁業新規就業者がほとんどおらず、高齢化による後継者不足が大きな課題である。</p>
--

## 3 活性化の取組方針

## (1) 基本方針

<p>漁業収入向上のために、以下のことに取り組む。</p> <p>①貝類資源の維持・増大を図るため、耕うん等による漁場管理を行う。</p> <p>②シジミ類、ハマグリ等二枚貝の資源維持、増大のため、保護区の設定や網袋の設置等を行う。</p> <p>③シジミ類の単価向上に向けたブランド化の取組みを実施する。</p>
---

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

シジミ類（採捕期間、数量）、ハマグリ（採捕期間、漁業調整規則によるサイズ制限等）の制限措置を執っているが、資源の動向をみながら今後も継続する。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成29年度）

漁業収入向上のための取組	以下の取組により漁業収入を基準年対比0.5%向上させる。 ・漁業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、漁場管理による水域資源の維持・増大を図るため、耕うんの実施計画を策定し、試験的に実施する。  ・採貝業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、安定したシジミ類、ハマグリの水揚げを可能にするため、一般開放している漁場の制限（輪作）や保護区の設定による資源保護策、網袋の設置等による資源増大策等の試験的実施計画の策定を行う。
活用する支援措置等	稚魚・稚貝等育成・放流等事業（宇城市）

2年目（平成30年度）

漁業収入向上のための取組	以下の取組により漁業収入を基準年対比2%向上させる。 ・漁業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、漁場管理による水域資源の維持・増大を図るため、耕うんを実施する。また、毎年その効果を検証し、改善点等は翌年度の取組みに反映させる。  ・採貝業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、安定したシジミ類、ハマグリの水揚げを可能にするため、一般開放している漁場の制限や保護区の設定による資源保護策、網袋の設置等による資源増大策等について試験的に実施する。
活用する支援措置等	稚魚・稚貝等育成・放流等事業（宇城市）

3年目（平成31年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより漁業収入を基準年対比 10%向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、漁場管理による水域資源の維持・増大を図るため、耕うんを定期的実施する。また、毎年その効果を検証し、改善点等は翌年度の取組みに反映させる。</li> <li>・採貝業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、安定したハマグリ、シジミ類の水揚げを可能にするため、保護区の設定による資源保護策や網袋の設置等による資源増大策に取り組むとともに、その効果を検証し、改善点等は翌年度の取組みに反映させる。また、販売単価を向上させるため、選別や出荷サイズの均一化等によるブランド化について協議する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>稚魚・稚貝等育成・放流等事業（宇城市）</p>

4年目（平成32年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより漁業収入を基準年対比 20%向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、漁場管理による水域資源の維持・増大を図るため、耕うんを定期的実施する。また、毎年その効果を検証し、改善点等は翌年度の取組みに反映させる。</li> <li>・採貝業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、安定したハマグリ、シジミ類の水揚げを可能にするため、保護区の設定による資源保護策や網袋の設置等による資源増大策に取り組むとともに、その効果を検証し、改善点等は翌年度の取組みに反映させる。また、販売単価を向上させるため、選別や出荷サイズの均一化等によるブランド化について試験的に取り組む。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>稚魚・稚貝等育成・放流等事業（宇城市）</p>

5年目（平成33年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより漁業所得を基準年対比 36.3%向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、漁場管理による水域資源の維持・増大を図るため、耕うんを定期的実施する。また、毎年その効果を検証し、改善点等は翌年度の取組みに反映させる。</li> </ul>
---------------------	--

	・採貝業者は、漁協とともに県の指導を受けながら、安定したハマグリ、シジミ類の水揚げを可能にするため、保護区の設定による資源保護策や網袋の設置等による資源増大策に取り組むとともに、その効果を検証し、改善点等は翌年度の取組みに反映させる。また、販売単価を向上させるため、選別や出荷サイズの均一化等によりブランド化し、イベント等でPR活動を行う。
活用する支援措置等	稚魚・稚貝等育成・放流等事業（宇城市）

#### (4) 関係機関との連携

取組みの効果が発揮できるよう、行政（宇城市、熊本県）や関係団体等と連携し、漁業者の所得向上に努める。
--

### 4 目標

#### (1) 数値目標

漁業所得の向上      %以上	基準年	平成    年度： 漁業所得      千円
	目標年	平成    年度： 漁業所得      千円

#### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

### 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
稚魚・稚貝等育成・放流等事業（宇城市）	安定したハマグリ・シジミ類の水揚げ

※関連事業には、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。